

令和6年第10回庄原市教育委員会議
令和7年度使用中学校用教科用図書採択 議事録

- 1 日 時 令和6年8月20日(火) 午後2時15分から
午後4時55分
- 2 場 所 庄原市役所 本庁舎5階 第3委員会室
- 3 出席委員 教 育 長 牧原 明人
教育委員 横山 和明、立花 有佐、捻金 宏昭、渡部 要
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席職員 教育部教育指導課長 高淵 直哉
教育部教育指導課学事係長 伊澤 知弥
教育部教育指導課指導係長 小谷 綾子
教育部教育指導課指導主事 福原 理恵

6 議事録（摘録）

<p>教育長</p>	<p>日程第5、議案第34号、令和7年度使用中学校教科用図書の採択について ただ今から会議を非公開とする。後日議事録を公開することについてお諮りする。 よろしいか。</p>
<p>委員（全員）</p>	<p>よい。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、日程第5、議案第34号、「令和7年度使用中学校教科用図書の採択について」事務局より議案の説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>議案第34号、「令和7年度使用中学校教科用図書の採択について」関係法及び関係規則に基づき、教育委員会の決定を求めるものである。「中学校用教科用図書採択に係る調査研究答申」の各教科の総合所見の欄を読んで提案する。なお、市民の意見については、配付資料のとおりである。</p> <p>まず、国語の総合所見である。全学年共通して巻頭に「思考の方法」が掲載され、思考方法の説明文書や図表とともに活用できる教材名（頁）を示している。ここで紹介した思考方法は各教材を学ぶ際に、より具体的に示されている。また、巻末資料が充実しているだけでなく、二次元コード参照先コンテンツ一覧の内容が最も多く多様な学びにつながる工夫がある。以上の理由で、総合的に判断して「三省堂」が最も適している。審議をお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>事務局から選定委員会における答申を踏まえた提案があった。選定委員会における答申の総合所見を参考にしながら、また、各委員の意見等を共有しながら進めていきたいと考える。（以下、事務局からの提案とする。）それでは、先ほどの国語について、質問、意見があればお願いします。</p>
<p>立花委員</p>	<p>私は「三省堂」がよいと思った。読書につながる参考資料とか参考図書が充実している。キーワードも振り返りがしやすくなっており、読書の広がりにつながれるとともに、まとめや参考資料が充実している。「東京書籍」もよいと思ったが、参考図書が古いように思う。現場の先生方にとっても、前回の採択時より4年間「三省堂」を使用してきた、参考図書等もそろえられているので、次の4年間でさらに充実させられると思う。</p>
<p>捻金委員</p>	<p>私は「三省堂」と「東京書籍」で迷っている。ただ、個人的に好きなのは「光村図書」だ。「光村図書」は、他の教科書とは違う読み物が多く掲載されているので、読み物としてはすごく面白かった。ただ、教科書としてバランスがよいのは、「三省堂」と「東京書籍」だと思う。</p>
<p>渡部委員</p>	<p>私も「三省堂」でよいと思うが、デジタルコンテンツについては他者もとても充実している。国語の教材の中で、デジタルコンテンツの活用方法はいろいろあると思う。また、読書の充実については、「光村図書」は紹介している読書本の冊数が多い。しか</p>

横山委員	<p>し、内容から言うと「三省堂」がよいと思う。</p> <p>デジタルコンテンツについては、多いに越したことはないと思うが、教員がそれをどんどん授業で使って発展させていくことと同時に、デジタルコンテンツがなくても授業ができるといった二本立てで考えていかななくてはいけない。私も選定委員の総合所見に異論はなく、「三省堂」がよいと思う。</p>
教育長	<p>私も「三省堂」がよいと思う。本市の学力調査の結果において、ここ数年国語の成績が安定している。それは、前回の採択時から「三省堂」を使用し、国語のレベルが上がっているという影響もあるのではないかと感じている。「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書」もよい点は多くあるが、総合的に見て「三省堂」がよいと思う。選定委員の答申の観点1～観点5の記載内容についても同感で、大いに参考にするべきだと思う。さらに学年別に教科書を比較したが、例えば、第1学年で取り扱われている「少年の日の思い出」では、「三省堂」の脚注「学びの道しるべ」が非常によい。語句も適切で、まとめの問題もあり、手引きのようになっているところが優れている。また、解釈は様々あると思うが、「光村図書」は、「大人になれなかった弟たちに」は、ちょっと悲しすぎて刺激が強すぎるといった傾向もあり、言葉遣いに課題もあると感じた。文学面で見ると「三省堂」が優れていると感じる。読書については、「東京書籍」が優れている。「お試し読書」としてよい本がそろっており、それぞれの本の誘導の仕方もよい。「三省堂」は又吉氏の本を読むことの面白さが伝わる内容があるのがよい。漢字・言葉については、「三省堂」の「語彙を豊かに」というコーナーが大変よい。古文については、「竹取物語」を比較したが、「東京書籍」は分かりやすい場面を取り上げていてよい。「光村図書」は子どもたちがあまり知らない部分を取り上げており、全体像が見えづらいと感じた。「教育出版」の解説は大変良かった。</p>
教育長 委員（全員）	<p>第2学年については、導入で目標が明確になっていることや、「学びの道しるべ」、「学びを広げる」などうまく学習展開ができるような内容があることなどから、「三省堂」がよい。「光村図書」もよかったが、太宰治の人物像がなく、脚注も少なかった。また、漢字や言葉については、「東京書籍」は例示がよい。「三省堂」は「文法の窓」や「文法のまとめ」が一緒に掲載されているのがよい。</p>
教育長 委員（全員）	<p>第3学年については、「三省堂」は難しい教材も扱っている。読書活動については、「東京書籍」が充実している。漢字・言葉については、「三省堂」がよい。</p> <p>他に意見はないか。</p>
教育長	<p>それでは、総合的に判断して、「三省堂」ということでよいか。</p> <p>よい。</p> <p>それでは、国語は「三省堂」に決定する。続いて書写について、事務局より提案を</p>

事務局	<p>願います。</p> <p>書写の総合所見である。姿勢、執筆法、用具の扱い方の示し方等、基本的な事項について写真や動画でポイントが簡潔に示されている。また、書写の学習用語や話し合いのポイントを示し、話し合い活動を通して学ぶことができるようになっている。教科の学習や生活の様々な場面との関連を図ったページが多く、日常生活で活用できる教材例も充実している。毛筆の教材数も豊富で、毛筆で学習した内容を生かした硬筆記入欄も多い。二次元コードの活用の仕方を簡潔にまとめて示している。以上の理由で、総合的に判断して「教育出版」が最も適している。</p>
教育長	事務局からの提案について、質問、意見があれば願います。
捻金委員	どの者もフルカラーで見やすく編集されているが、私は、筆の運びが大きく示されているという点で「教育出版」がよいと思った。その他の点では大差がないように思ったので、「教育出版」がよいと思った。
横山委員	私も「教育出版」が良いと思う。「教育出版」は、教科書で墨の使い方について紹介している。最近学校では本物のすずりは使わないのかもしれないが、教科書の中で、「墨汁ではなく、墨でするものなんだ。」ということを知り子供たちが知ることになればよいと思う。また、適した写真も多く掲載されている。
渡部委員	国語と書写で者が違うことについて、同じにする必要はないと思うが、先ほど国語で採択された「三省堂」の書写の教科書を見ると、少し不十分に感じる。毛筆や硬筆の教材数が充実している点や日常生活の場面に活用できる教材が充実しているという点で、私も「教育出版」がよいと考える。国語と書写の者が違うということについては問題ないか。
教育長	国語と書写の者が異なるということは過去にもあった。他の自治体でもそうした状況はあり、問題ないと考える。
渡部委員	音楽についても、一般と器楽の者が違っても問題ないか。
教育長	同様に問題ないと考える。事務局から補足はあるか。
事務局	音楽については、一般と器楽の者が違っても特に問題はないと聞いているが、揃っていた方が指導しやすい面があるとも聞いている。国語と書写については、者が違っても特に問題はないと聞いている。
立花委員	答申の観点3に、「三省堂」は国語の教材との関連を図ったページが多いという記載があったため、国語と書写を違う者にするということについて気になっていた。ただ、先ほどの話を聞いて納得した。「教育出版」は日常生活で活用できる教材例が充実している点や写真が多い点などからよいと思う。
教育長	私も「教育出版」がよいと思う。内容についてはそれぞれ工夫したものがあったが、海外エアメールを紹介しているのは「教育出版」のみである。また、願書の書き方、

	<p>面接についても取り扱っている。のしの書き方について比較したが、「光村図書」はのし封筒を掲載していなかった。封書の裏の書き方についても比較したが、「光村図書」は左側に住所や氏名等が書かれていた。「光村図書」は31ページ、「三省堂」85ページにタブレットを使う時の姿勢やタッチペンの持ち方について紹介してあった。「教育出版」と「三省堂」は詩を紹介していた。「教育出版」は、最初のところで、「目的に合わせて書こう」という確認もしており、よくまとめている。また、答申の総合所見にあるように、毛筆や硬筆の内容もよいと思う。以上のことから、「教育出版」がよいと思う。</p>
<p>教育長 委員（全員）</p>	<p>他に意見がなければ、総合的に判断して、「教育出版」ということでよいか。 よい。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、書写は「教育出版」に決定する。続いて地理について、事務局より提案をお願いする。</p>
<p>事務局</p>	<p>地理の総合所見である。学習内容に関連付けた写真や地図、二次元コードを多く掲載して、学習意欲を高め学習課題へと導き、資料やコラムを読みとり整理・分析を行うなど主体的に学習に取り組むための工夫がなされている。単元末には関連資料を挙げ、見方・考え方を働かせたグループでの話し合い、また自分の言葉でまとめるなど多様な学習活動が工夫されており、主体的に学習を深めることができる。以上の理由で、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。</p>
<p>教育長 横山委員</p>	<p>事務局からの提案について、質問、意見があればお願いする。</p>
	<p>先ほど話に出たように、社会についても教科書会社の統一性が必要であるかという話になる。現在は「東京書籍」を使用しており、これまでも長い間使用していることを考えると、「東京書籍」は標準的で使いやすいのではないかと思う。地理の教科書では地図は切り離せない。「東京書籍」は、最初に気候で区別してあり、その後地域ごとに学習する流れになっている。各地域の最初に、その地域について適した地図が載っているとよい。地図帳を見させればよいという意見もあるかもしれないが、地図帳を見させる時には地図帳をしっかり見させるべきだと思う。その点で、地理の教科書に学習に必要な地図が載っているとよいと思う。「教育出版」は、日本全体の地図が見開きで載っており、日本の各地域の地図も大きく分かりやすく載せてある。一方、「帝国書院」は地図が簡略化され、サイズも小さめである。また、日本の地域についての写真は多いが、地図については不十分に感じる。「東京書籍」は、全体的に地図のサイズが小さく、パッと見たときにこれから学習する地域がとらえにくい。先の話（教科書会社の統一性）に戻るが、中学校では、第1学年と第2学年にわたって地理や歴史を学習し、第3学年で公民を学習する。そういう意味で、（前回の採択時と）同じ者の方がよいという考え方もある。そうでないなら、他の選択肢もあると思う。個人的には</p>

教育長	<p>「教育出版」がよいと思う。</p> <p>今の話について、新1年生は今回採択する新しい者の教科書を使用する。新2年生は現行の教科書を使用する。新3年生は公民以外は現行のままの教科書を使用する。そういう点で、国語や書写とは違い、連続性がある教科である。選定委員もそのあたりを考慮しながら選定しているのではないかと思う。</p>
渡部委員	<p>どの者もよいと思ったが、教科書と地図を関連させて考えると、「帝国書院」や「東京書籍」がよいと思った。「帝国書院」は地図は少ないが、写真を多く掲載しており、内容が充実している。地図帳と併用して使用することを考えれば問題ないと思う。二次元コードの使い方について、教科書の裏に説明があり、子供たちが自分で学びやすいようになっている。内容が非常に分かりやすいので、「帝国書院」がよいと思う。ただ、「帝国書院」は内容量が多い。それに比べ「東京書籍」は少ないページ数の中でコンパクトによくまとめられている。</p>
教育長	<p>私も最終的には「東京書籍」がよいと思った。ただ、「日本文教出版」もよいと思った。「日本文教出版」は單元ごとに見直しをもつことができるようになっている点でよい面がある。しかし、1・2学年が継続して使用するというのを考えると、「東京書籍」は、地図のサイズが小さいところはあるが、答申にもあるように、單元末に関連資料が挙げてあり、見方、考え方を働かせた話し合いや自分の言葉でまとめるという点など、総合的に見てよいと考える。</p>
教育長 委員（全員）	<p>他に意見がなければ、総合的に判断して、「東京書籍」ということでよいか。</p> <p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、地理は「東京書籍」に決定する。続いて歴史について、事務局より提案をお願いします。</p>
事務局	<p>歴史全体に占める各時代区分の分量のバランスがよく、資料等も豊富で偏りが少ない。身近な地域の歴史を調べる「調べ学習」では、学習のポイントや事例を掲載するとともに、調べる手順・方法（テーマの設定、調査、考察、まとめ、発表、振り返り）についても分かりやすく示しており、生徒が主体的に学習に取り組むための工夫がなされている。各章ごとに探究課題を設定し、思考ツールを活用して自分の考えを整理させ、文章でまとめさせるようにしている。また、探究課題に取り組む前に各節の学習を振り返らせるといった場面も設定しており、生徒の思考力、判断力、表現力等の育成も意識されている。以上の理由で、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。</p>
教育長 横山委員	<p>事務局からの提案について、質問、意見があればお願いします。</p> <p>歴史は苦手な子供たちも多い中で、日本と世界がどのように関わり合ったか、また日本国内ではどのように時代が移り変わっていったかについて、年表と上手く対比し</p>

	<p>てであると理解しやすいと思う。歴史に興味のない子供は、鎌倉時代と室町時代など、各年代を混乱することがあるが、「山川出版」は時代ごとに日本の動きと世界の動きが書かれており、大変分かりやすい書き方であると感じた。「帝国書院」は年表はないが、地図でそれぞれの時代の世界の動きが書いてあり、面白い。個人的に好みなのは「山川出版」であるが、答申にもあるように、先生方にとっては「東京書籍」が標準的で教えやすいと考える。また、地理の教科書との兼ね合いからも「東京書籍」がよいと考える。</p>
捻金委員	<p>社会科全般が苦手だった自分にとっては、「教育出版」が読みやすいと感じた。「教育出版」には、歴史ゲームなど、継続して遊びながら覚えられそうな内容があり、苦手な子供たちにとっては学習の取り掛かりになるのではと思う。</p>
渡部委員	<p>「帝国書院」は、各章の始まりに中学生にも分かりやすいようなイラストが必ずある。その時代を表すような、興味をもてるイラストで導入をしている点が面白い。また、二次元コードがまとめて示してあり、一目で見て分かりやすい。ただ、ページ数が多く、内容が多い。「東京書籍」はポイントが絞られており、内容が整理されている。</p>
立花委員	<p>私は、「東京書籍」がよいと思う。よくまとめられていて、読みやすく、内容が頭の中にすっと入ってくる。</p>
教育長	<p>私も、最終的には、総合のまとめ方に工夫がある点で「東京書籍」がよいと思う。「山川出版」は年表が後ろにまとめて示されてはいないが、その都度でまとめて示してあるので良い。「教育出版」は導入の仕方に工夫がある。それぞれの者に良さがあると感じている。ただ、「東京書籍」は、学習を振り返らせる場面が設定してあり、子供たちが学習のまとめをする際に取り組みやすいと思う。</p>
教育長 委員（全員）	<p>いろいろ意見は出たが、総合的に判断して、「東京書籍」ということでよいか。 よい。</p>
教育長	<p>それでは、歴史は「東京書籍」に決定する。続いて公民について、事務局より提案をお願いする。</p>
事務局	<p>公民の総合所見である。大単元を見通した「課題をつかむ」「課題を追究する」「課題を解決する」という学びのプロセスが明確であるとともに、絵図や写真、新聞記事が数多く掲載され、生徒の興味・関心を高めたり、多面的・多角的に考えたりすることに効果的である。また、学習を広げるデジタルコンテンツが様々な学習場面で活用できるように工夫されている。さらに、課題等を自分のこととして捉え、未来の社会を切りひらく力を身に付ける視点に立った各章末の「まとめの活動」や数多くのコラム「もっと知りたい！」が取り上げられている。以上の理由で、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。</p>

教育長 横山委員	事務局の提案について、質問、意見があればお願いします。 「東京書籍」は、図や写真が大きくないが、逆にそれがよいと思う。公民は自分たちのこれからの生活に密接に関わってくる分野であるため、興味本位ではなく、じっくり内容について考えることが大切である。他者の教科書は図や写真が多すぎて、頭の中に内容があまり入ってこないと感じた。したがって、「東京書籍」がよいと思う。
教育長	「東京書籍」は、まとめ方に工夫がある。自分事として課題を考えることができる問いを設定するなど、さまざまな工夫が見られるのでよいと思う。
教育長 委員（全員）	他に意見はないか。 ない。
教育長 委員（全員）	選定委員の意見等も考慮し、総合的に判断して、「東京書籍」ということでよいか。 よい。
教育長	それでは、公民は「東京書籍」に決定する。続いて地図について、事務局より提案をお願いします。
事務局	地図の総合所見である。陸高や水深、土地利用の凡例が各ページに掲載されており、地図を活用する上での着目点が明確に示されている。地図を活用する上で読図のポイントが示されており、学習内容を分かりやすくしている。特に社会科との関連においては、地図で確認し深めることができる。さらに各所に二次元コードがあり、URLからコンテンツにアクセスでき、より幅広く深く学ぶことができる。 以上の理由で、総合的に判断して「帝国書院」が最も適している。
教育長 横山委員	事務局からの提案について、質問、意見があればお願いします。 「帝国書院」は、地図上に絵が多く入っており、地図を見るのも嫌だといった子供たちにはよいかもしれない。一方で、「東京書籍」は絵入りの地図ではなく、基本的な落ち着いた地図で見やすい。また、尖閣諸島、北方領土などすべてが入った日本全体の地図を載せているのもよい。「帝国書院」は凝りすぎているように感じる。あくまで地図は、授業の中で必要な時にさっと地図を開いて、詳細を確認する時に見るもので、いつも地図を使って授業をするわけではない。また、地理、歴史、公民が「東京書籍」なら、地図も「東京書籍」で統一したらどうかと思う。
渡部委員	私もそう思う。地理の教科書が「東京書籍」であれば、地図も同じ者の方が授業で活用しやすいのではないかと考える。また、「東京書籍」の地図は簡潔で分かりやすい。
立花委員 教育長	同感である。 先ほど話に出てきた日本の領土については、「帝国書院」も、最後に日本全体の地図を載せている。私は、「帝国書院」がよいと思う。ただ、「東京書籍」は、鉱山資料や輸出量などの様々な資料が巻末にあり、データが新しい。例えば、鉱山資料を比較す

	<p>ると、「東京書籍」は2022年のもの、「帝国書院」は2021年のものである。「帝国書院」がよくまとめているのは、主な国の人口ピラミッドについて、日本の人口ピラミッドの推移が分かりやすくまとめている。「東京書籍」は日本単独のものであり、他との比較がされていない。また、ページ数で言うと、「東京書籍」が176ページに対して、「帝国書院」が198ページと20ページも多く、その分資料が多い。地図にある高低差の色なども「帝国書院」の方がよい。また、「帝国書院」は102ページに人口密度と交通網の比較があるが、「東京書籍」にはそれがなく、82ページにバラバラに掲示してある。このように、使いやすさも含めて細部にわたって見ると、「帝国書院」の方がやはりよいのではないかと思う。また、「帝国書院」は「日本国」という言葉が使われているが、「東京書籍」はそうではない。</p>
捻金委員	<p>私は、パッと見たときに、「東京書籍」の方がシンプルで分かりやすいと感じた。「帝国書院」の地図の教科書は昔から使われており、馴染みがある。</p>
教育長	<p>竹島の写真はどちらの者にも載っているか。</p>
委員（全員）	<p>どちらの者にも載っている。</p>
教育長	<p>事務局から補足はあるか。</p>
事務局	<p>特になし。答申の内容の通りである。</p>
教育長	<p>地図で大切な水深などが各ページに掲載されているのは「帝国書院」ではなかったか。</p>
立花委員	<p>どちらもある。</p>
横山委員	<p>先ほどは他の社会の者とそろえた方がよいのではという意見を出したが、これまでも地図は「帝国書院」を使用してきたし、使いやすい面もあるので、「東京書籍」でそろえる必要はないと思う。</p>
教育長	<p>「帝国書院」も「東京書籍」もそれぞれに良いところがある。特に「東京書籍」は以前と比べてずいぶん使いやすくなってきていて、甲乙つけがたいが、選定委員の意見等も考慮し、総合的に判断して、「帝国書院」ということでよいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、地理は「帝国書院」に決定する。続いて数学について、事務局より提案をお願いします。</p>
事務局	<p>数学の総合所見である。全学年「MATH CONNECT」をテーマに、算数・数学どうし、身のまわりの生活や社会、見方・考え方など、生徒が様々な「つながり」を意識する設定となっており、発展的な内容につなげる工夫がある。内容の構成では、第1学年で第0章「算数から数学へ」を設け、算数で学んだ整数や九九表を自然数や素因数分解など数学の視点で学び直すことで、算数と数学のつながりを大切にしている。また、練習問題では、単元末で基本の問題を出題し、章末では難易度を分けて出題しており、</p>

教育長	基礎・基本の定着ができるよう工夫されている。以上の理由で、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。
捻金委員	<p>事務局からの提案について、質問、意見があれば願います。</p> <p>私は「日本文教出版」と「東京書籍」がいいと思う。「日本文教出版」は内容がシンプルにまとめられていて見やすいと感じた。「東京書籍」も教科書としてよくまとめられていると思う。</p>
教育長	<p>私は、学力向上に向けて、庄原市の課題である関数や図形の問題、答申の観点4にもある第3学年「2次方程式」の扱い方、基礎問題や活用問題の問題数について比較した。子供たちは問題を解いた後、すぐに答え合わせをしたいと思うことがあると思うが、「啓林館」は、教科書の問題の解答がすべて二次元コードに掲載されており、教科書には載っていないため、解き終わってすぐに答え合わせをしたいと思った時に少し不便のように感じる。他者にも、問題自体を二次元コードに多く載せている教科書もあるが、紙面でも確認できる。また、二次元コードにある問題など、それを授業や家庭でどう活用するのか、それが自主的な学習につながるのかなど、難しい問題である。選定委員が考える「東京書籍」もよいと思うが、私は「学校図書」がよいと思う。2次方程式の扱い方を比較すると、「啓林館」と「東京書籍」のみが解の公式から因数分解という流れで学習するようになっている。その他は因数分解から解の公式の流れで学習するようになっている。子供たちにとってどちらが学びやすいかということを考えると、指導の工夫により、どちらも有効であるとは思いますが、因数分解の解きやすい方から入る方が理解しやすいと考える。問題数や庄原市の数学の課題等を鑑みると、少し問題に工夫がしてある「学校図書」がよいと考える。また、「東京書籍」には学び直しができないが、「学校図書」には振り返りのページがあり、用語の整理がされているのがよい。「日本文教出版」は章を学ぶ前に問題があるのがよい。</p>
立花委員 教育長	<p>庄原市はずっと「東京書籍」を使用しているのか。</p> <p>前回の採択時に「学校図書」に変わった。そこから約4年が経過して現在に至る。事務局に質問するが、現場の教員から現行の「学校図書」の教科書について、使いにくいという意見はあるか。</p>
事務局	<p>そういった声は聞いていない。選定委員会の協議の中でも「東京書籍」と並んで「学校図書」もよいという意見が出たと聞いている。</p>
教育長 渡部委員	<p>二次元コードをどう使うかについて、よく考える必要がある。</p> <p>教科書に多く二次元コードを掲載しているのは、子供たちの自学自習の時に活用させるためであると考え。それぞれの子供の能力や進度に応じて活用できるようにすることが大切である。二次元コードをうまく使うことができるのなら、二次元コードの数が多いい「東京書籍」はよいと思う。事務局に質問するが、庄原市内の学校では、</p>

事務局	<p>タブレットを使った数学の授業は多くされているか。</p> <p>市内中学校の数学の授業でのタブレット利用はまだまだ少なく、本市がこれから取り組んでいくべきところでもある。タブレット等の使用は当たり前という前提で、指導者の抵抗感を減らしながら、効果的な使い方について指導を工夫していく必要がある。</p>
横山委員	<p>二次元コードが多いという点で「東京書籍」を選ぶとすると、指導方法も含めて全体的にデジタル化の方向に流れていかないか。そうした方向に向かうべきなのか。</p>
事務局	<p>紙か電子のどちらがよいということではないと考える。学びを深めるための1つの手立てとして、デジタルコンテンツをより効果的に活用させるための指導方法など、教員の指導力を高めていかなければいけないと思う。子供たちの方が教師よりもデジタルコンテンツを抵抗なく使っている面もある。</p>
横山委員	<p>私は、二次元コードは授業の中で活用すべきだと考える。二次元コードが多いからと言って、すべて授業で活用できるのか。</p>
事務局	<p>教師の従来の指導方法を改善していかなければ、デジタルコンテンツだけが取り残されてしまうと思う。</p>
横山委員	<p>現行の「学校図書」から「東京書籍」に変えるのであれば、大きな決断が必要であると思う。私は「学校図書」のままでよいと思う。</p>
立花委員	<p>同感である。</p>
教育長	<p>図形などを見せる際にはデジタルコンテンツの活用は効果的だと思う。指導者がデジタルコンテンツを使って何を見せるかよく考えないといけない。本市では、特に小学校の授業で、実際に児童が解く問題数が少なく、中学校とのギャップが大きいという課題がある。継続して「学校図書」を使用し、力をつけていくという考え方もできる。本市の課題である図形、関数、2次方程式のこと、さらに二次元コード、問題数などのことを踏まえることが大切である。</p>
教育長	<p>他に意見はないか。</p>
委員（全員）	<p>ない。</p>
教育長	<p>それでは、総合的に判断して、「学校図書」ということでよいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>数学は「学校図書」に決定する。それでは続いて理科について、事務局より提案をお願いします。</p>
事務局	<p>理科の総合所見である。基礎・基本の定着を図るため、他教科との関連付けや小学校の既習事項との関連付けをしている。観察、実験を安全に行うための注意事項等を9種類のマークで記載するなどの工夫がなされている。主体的に学習に取り組む工夫として、科学的な研究を行うため、探究の過程を示し活用できる巻末資料等を豊富に</p>

教育長 教育長	<p>掲載している。また、章末問題等の解答を web 上で見ることができる。以上の理由で、総合的に判断して「啓林館」が最も適している。</p> <p>事務局からの提案について、質問、意見があれば願います。</p> <p>私から意見を述べる。私は最終的には「啓林館」がよいと思った。ただ、「東京書籍」、「教育出版」、「学校図書」もよいと思った。例えば、1 学年の植物の分類では、「啓林館」と「教育出版」が優れていると感じる。「学校図書」はシンプルで見やすい。答申にもあるように、基礎・基本の定着を図るため、他教科との関連付けや小学校の既習事項との関連付けをしている点や、観察、実験を安全に行うための注意事項等を 9 種類のマークで記載するなどの工夫がされている点、主体的に学習に取り組むための工夫がされている点など、総合的に見て「啓林館」が最もよいと思った。また、3 年生と 2 年生の元素記号の周期表で比較しても、「啓林館」が分かりやすくまとめである。ICT の資料はどの者も充実しているが、特に「啓林館」は ICT に関連した資料が多くある。一方で、「学校図書」の補充資料は 54 ページあり、最も充実している点はよいと思った。また、紙の質は、「教育出版」や「学校図書」に比べて、「啓林館」や「東京書籍」はあまりよくないと感じた。</p>
教育長 委員(全員)	<p>他に意見はないか。</p> <p>ない。</p>
教育長	<p>それでは、選定委員の意見も考慮し、総合的に判断して、「啓林館」ということでよいか。</p>
委員 (全員)	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、理科は「啓林館」に決定する。続いて、音楽（一般）について、事務局より提案をお願いします。</p>
事務局	<p>音楽（一般）の総合所見である。見開きの「中学生の音楽の学習内容」で、育成を目指す資質・能力と、それに対応する領域・分野ごとの学習内容や教材が分かりやすく示されており、資質・能力の育成を意識した学習を進めることができる。また、各教材で扱うことのできる学習内容が全て示されており、その関連性の大小が色の濃さでも表されているので、教材のねらいに応じた学習内容を適宜選ぶことができる。教材に音楽を形づくっている要素が分かりやすく掲載されており、学習のポイントが明確である。音楽と生活の関わりについて、音楽を学ぶ意義や表現者からのメッセージが掲載されており、生徒に興味・関心をもたせ、主体的な学びへとつなげることができる。また、世界の諸民族の音楽など、3 学年を通して系統的に学習を深めていく工夫をしている。以上の理由で、総合的に判断して「教育芸術社」が最も適している。</p>
教育長 横山委員	<p>事務局からの提案について、質問、意見があれば願います。</p> <p>事務局に質問だが、現行の教科書はどの者か。</p>

事務局 教育長	<p>「教育芸術社」である。</p> <p>「教育芸術社」は、二次元コードで全ての曲にカラピアノを付してある点の特徴であると思う。「教育出版」は「楽典」という正式な音楽の言葉を使ってまとめているが、「教育芸術社」は「約束」という言葉を使っている。また、国歌の説明を丁寧に行っているのは「教育出版」である。さらに、「ふるさと」について、「教育出版」は全ての学年で取り上げており、二部合唱、三部合唱、四部合唱に分けて学習ができるようにしてある。一方で「教育芸術社」は2、3年下の方で1ページのみでしか扱っていないという差がある。選定委員の答申では、例えば観点2についてはあまり差がないという報告を受けている。そうであれば、こういったことも考慮して選定してもよいと思う。それから音楽の一般と器楽は関連が深い面もあり、同じ者でそろえた方がよいという考え方もあると思うので、器楽についての協議もあわせてするのはどうか。</p>
委員（全員）	よい。
教育長	それでは音楽（器楽）について、事務局より提案をお願いします。
事務局	音楽（器楽）の総合所見である。見開きの「中学生の器楽の学習内容」で、育成を目指す資質・能力と、それに対応する領域・分野ごとの学習内容や教材が分かりやすく示されており、資質・能力の育成を意識した学習を進めることができる。また、楽曲ごとに学習目標も設定されているなど、主体的に学習に取り組めるようになっている。構成や表現、表記の工夫としては、学習内容に即した音楽を形づくっている要素について示してあり、演奏時のポイントが明確である。
教育長	以上の理由で、総合的に判断して「教育芸術社」が最も適している。
渡部委員	事務局からの提案について、質問、意見があればお願いします。
教育長	教材数は、一般も器楽も「教育出版」の方が多い。すべて学習しなくてもよいのであれば、教材数が多い方が、その中からより合った教材を選択でき、学びやすいと思う。「教育出版」は、郷土が誇る太鼓奏者の林英哲さんを扱っている。また、音楽の一般と器楽は者を統一した方が指導しやすいのではないかと思う。
渡部委員	構成や写真の掲載などについて、2者に差はほとんどなかった。あとは、曲目や曲数、どのような人物を取り上げているかを比較することになるだろう。
教育長	ギターや琴、三味線、尺八など、全ての楽器をしなければならないのか。その楽器がない学校はどうするのか。
事務局	学校に楽器がない場合は、動画などで指導ができると思う。「教育芸術社」はすべての曲について、二次元コードにカラピアノを付しているのが特徴的である。事務局に質問するが、カラピアノは、授業で活用しやすいか。
事務局	市内の中学校において、パートに分けて、グループごとに練習させるのに活用している授業を参観したことがある。

渡部委員	「教育出版」にはカラピアノはまったくないのか。
教育長	「教育出版」もすべてではないが、カラピアノを聞くことができる曲もある。
立花委員	2者の曲目などを何度も見比べてみて、クラシックなどの曲の選曲が、「教育出版」の方がよいと感じた。
教育長	事務局に質問するが、やはりカラピアノは必要か。CD など購入することはできるか。
事務局	指導書に付属している CD にカラピアノが収録されていると思うので、それでも対応はできると考える。
教育長	その他意見はあるか。
委員（全員）	ない。
教育長	それでは、曲の選択の幅や、言葉遣い、ふるさとのことなど、これまでの意見を総合的に判断して、音楽については、一般、器楽ともに「教育出版」ということでよいか。
委員（全員）	よい。
教育長	それでは、音楽は一般、器楽ともに「教育出版」に決定する。続いて美術について、事務局より提案をお願いする。
事務局	美術の総合所見である。見開きや折り込みなどで作品の大きさを実感できるページがあったり、「日本の絵画を楽しむ」で和紙のような風合いのページを用いたりするなど、生徒の興味・関心を高める工夫がある。また、美術1に「資料 つくってみよう 見てみよう」として別冊でまとめるなど、生徒が表現活動に主体的に活用しやすい工夫がある。また、他教科で学んだことの生かし方を掲載し、他教科とのつながりを示すなどの工夫がある。以上の理由で、総合的に判断して「光村図書」が最も適している。
教育長	事務局からの提案について、質問、意見があればお願いする。
立花委員	私も「光村図書」の「資料 つくってみよう 見てみよう」として別冊があるのがよいと思った。
教育長	「光村図書」は2冊と資料、「日本文教出版」は3冊、「開隆堂」は2冊で、「光村図書」は資料が優れていると思う。また、「光村図書」は、中学生が実際に取り組んでいる様子の写真が随所に掲載されており、写真の中の生徒の表情もよい。さらに、題材に応じて、和紙のような風合いのページを用いているのもよい。「開隆堂」は鑑賞教材が多く、学べる点があった。「光村図書」や「日本文教出版」は造形的な視点でポイントを示している。私も総合的に見て「光村図書」がよいと思う。
教育長	他に意見はないか。
委員（全員）	ない。

教育長 委員（全員） 教育長 事務局	<p>それでは総合的に判断して、「光村図書」ということでよいか。</p> <p>よい。</p> <p>それでは、美術は「光村図書」に決定する。次に保健体育について、事務局より提案をお願いします。</p> <p>保健体育の総合所見である。導入では、生徒が課題意識と解決の見通しをもって取り組めるよう、本時の課題や課題解決のためのキーワードを掲載している。展開では資料やイラストを基に思考を促す問いが設定され、まとめでは学んだ知識・技能を活用したり、広げたりすることができる構成となっている。また、章末において発展的な内容を取り上げるとともに、4つの視点（キーワード・章末問題・日常生活に生かそう・SDGsについて考えよう）で学習内容を多面的にまとめることができる。さらに、健康・安全に関する20のスキルを巻末スキルブックにデジタルコンテンツ（動画）とともに掲載しており、日常生活と関連した学習内容の指導の充実につなげることができる。以上の理由で、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。</p>
教育長 渡部委員 事務局 教育長	<p>事務局からの提案について、質問、意見があればお願いします。</p> <p>事務局に質問するが、現在使用しているのはどの者か。</p> <p>「東京書籍」である。</p> <p>私から意見を述べる。4者のうち、保健から始まる構成となっているのが「東京書籍」である。あとの3者は体育から始まる構成となっている。子供たちはどちらの方がより興味をもつだろうか。スポーツについて、「大修館」は「成長とスポーツの広がり」として、学研は「スポーツには世界を変える力がある」として取り上げている。また、スマートフォンが及ぼす影響について、「大修館」は96ページに、「スマートフォンの使用が脳に影響している」という内容の記述があり、本市の課題に対応できる内容である。性についての取り扱いは、4者に大きな差はなかった。「東京書籍」は、放射線についての記述があることや、「巻末スキルブック」があるのはよい。ただ、「東京書籍」は、p.52,53の体のつくりの中で骨についての説明がなく、他の3者は巻末に骨や筋肉についてまとめてある。総合的に検討して、私は「大修館」がよいと思う。</p>
立花委員 事務局 教育長 事務局	<p>私は「東京書籍」の「巻末スキルブック」が分かりやすくよいと思った。</p> <p>性の多様性に関して触れているかどうかという点も大切な視点であると考えます。</p> <p>どの者も扱ってはいるが、「大修館」はp.42,43で「『性』についての固定的な考え方に気付こう」として取り扱っている。事務局に質問するが、スマートフォンが脳に影響するといった内容を記述しているのは「大修館」だけか。</p> <p>「大修館」だけである。他の3者は姿勢や目への影響については言及しているが、脳については言及していない。</p>

教育長	「大修館」には自分の生活と関連付けて考える視点があつてよい。「東京書籍」には、肩甲骨などさまざまな骨についての内容がないのがやはり気になる。まとめ方にも違いがある。「大修館」は、章のまとめごとに問題等もあり、ふり返ることもできてよい。
教育長	他に意見はあるか。
委員（全員）	ない。
教育長	それでは、総合的に判断して、「大修館」ということでよいか。
委員（全員）	よい。
教育長	それでは、保健体育は「大修館」に決定する。続いて、技術であるが、関連が深いので、家庭科と合わせて行うこととしてよろしいか。
委員（全員）	よい。
教育長	それでは、技術と家庭科について、事務局より提案をお願いします。
事務局	まず、技術の総合所見である。ガイダンス「技術の見方・考え方」において、身近な技術の具体例を取り上げるなど、課題に対する活動が明確になっているため、主体的で対話的な学習ができるよう工夫されている。また、実践的・体験的な学習の具体例を多く扱っており、時代に沿った内容が組み込まれている。内容の表記では、中学校の他教科や小学校との関連が明確になるよう工夫されている。以上の理由で、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。
	続いて、家庭科の総合所見である。基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための工夫として、安全に実習に取り組むための実習前・実習中・実習後におけるそれぞれのチェック項目を記載するとともに、ポイントとしてまとめることで、生徒が安全を意識して取り組めるようにしている。また、主体的に学習に取り組めるようマークやキーワードにより、毎日の生活を家庭分野の見方・考え方から見るようにしている。さらに、デジタルコンテンツが充実している。以上の理由で、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。
教育長	まずは技術について、質問、意見があればお願いします。
教育長	私は、「教育図書」がよいと思う。「教育図書」は、構成が見やすく、別冊として「スキルアシスト」があるのが大変良い。「東京書籍」は、動画が充実しており、学習のまとめの問題は3つの資質・能力の柱で整理して問うているところがよい。
捻金委員	私は、「教育図書」は別冊「スキルアシスト」があるのがよいと思った。厚い教科書を見るより、薄い別冊にまとめてある方が、子供たちにとっては見やすいのではないかと感じる。
教育長	私も子供たちにとって別冊にまとめてある方が見やすいのではないかと思います。
教育長	関連して、家庭科について、質問、意見があればお願いします。

立花委員	私は、「教育図書」がよいと思う。技術のように別冊はないが、構成が見やすい。取り扱っている食材の種類も充実している。
渡部委員	私も「教育図書」がよいと思う。全体的に見やすい。各編の最初に「自立度チェック」があり、生徒の興味関心を高める工夫されていると感じた。
教育長	生徒たちにとって、料理については、特に興味、関心があるところであろう。肉、魚、野菜の組み合わせが何種類あるか、弁当作り、間食作り、地域の食文化、和食など細かく見た。例えば、魚料理でいうと、「教育図書」は、ムニエル、鯖焼き、煮魚、ホイル蒸しが紹介されているのに対し、「東京書籍」は、ムニエル、みそ煮、鯖焼き井ぶりが紹介されており、「教育図書」の方がメニューの種類が多い。ただ朝食については「東京書籍」のみが取り扱っていた。
渡部委員	「教育図書」は、二次元コードのマークのそばに、何についての情報が載っているかについて、簡単に説明がしてあり分かりやすい。
立花委員	「教育図書」は、幼児のところも丁寧に書いてある。
教育長	それでは、総合的に判断して、技術・家庭科ともに「教育図書」でよいか。
委員（全員）	よい。
教育長	それでは、技術・家庭科ともに「教育図書」に決定する。続いて英語について、事務局より提案をお願いします。
事務局	英語の総合所見である。「東京書籍」は、Unit ActivityやStage Activityなど各単元の終末や複数単元の学習後に、コミュニケーションの目的、場面、状況が明確にされた言語活動が多く設定してある。また、小学校外国語科との接続として、第1学年では小学校で学習した語句や表現がマークとともに示してあり、小学校外国語科との接続を図った単元等の種類も多い。さらにCan Doリストにおいても、小学校や高等学校とのつながりを意識して領域別学習到達目標を記載している。 「開隆堂」は、各単元の最初に2コマまんが形式で新出表現を導入し、言語の使用場面をイメージしやすくしている。また、各単元の学習後に「Retell&Review」や「Action」で学習内容の復習や応用ができる。さらに話すこと（やり取り）を中心に、コミュニケーションの目的、場面、状況が明確にされた言語活動が多く設定してある。
教育長	以上の理由で、総合的に判断して「東京書籍」及び「開隆堂」の2者が適している。事務局からは2者について提案があった。事務局からの提案について、質問、意見があればお願いします。
横山委員	現在使用しているのはどの者か。
教育長	「開隆堂」である。「開隆堂」は、基礎的・基本的な内容がきちんと押さえられており、やるべきことが明確に示されている。教科書の流れに沿って指導すれば、教員の指導力の差にあまり左右されず、指導すべき内容を一通り押さえることができるので

	<p>はないかと考える。「東京書籍」は小学校での学習内容を生かしながら、学年が上がるにつれて徐々に難易度も上がっていく中で、指導者の創意工夫次第で、子供たちは英語の勉強が好きになり、力が高まっていくのではないかと感じた。また、目次の英語タイトルに日本語が付してあり、英語が若手な子供たちにとっては、この単位では何を勉強するのかイメージをもちやすいと思う。英語が苦手な子供たちにとって構成が分かりやすいのは「東京書籍」であると感じた。</p>
横山委員	私も「東京書籍」の構成が見やすいと感じた。
立花委員	同感である。
教育長	他に質問、意見はあるか。事務局から補足はあるか。
事務局	<p>現在、本市の小学校では「東京書籍」を使用している。特に「東京書籍」の中学校1学年の教科書は、小学校の教科書と同じ構成になっており、小学校から中学校への接続がスムーズにできると考える。ただ、「開隆堂」も小学校との接続を意識した復習ページが多く設定してある。難易度については、1学年ではあまり差はないが、学年が上がるにつれ、「東京書籍」の方が難易度は高くなっている。「開隆堂」は、学年が上がっても、押さえるべき基本的な表現や文法を、単元の最初でまとめて導入するという流れは変わらず、漫画形式で言語の使用場面を想像しやすくしているので、英語が苦手な生徒にとっては学習しやすいのではないかと思う。</p>
教育長	英語が得意な子供、苦手な子供の両方にとって使いやすく、より英語の力を高めていくことができるのはどの者であるかということを考えていく必要がある。
教育長	それでは、小学校の接続という点や、総合的に判断して、英語は「東京書籍」でよろしいか。
委員（全員）	よい。
教育長	それでは、英語は「東京書籍」に決定する。最後に道徳について、事務局より提案をお願いする。
事務局	<p>道徳の総合所見である。これまで道徳教材として長く読み継がれてきた名作や心に染み入る教材が多い上、近年注目を浴びている人物、情報モラルやいじめの問題など現代的な課題をもとにした教材もバランスよく取り上げられている。また、漫画やイラストなどが効果的に活用されており、生徒にとって親しみやすく、考えたいような構成になっている。さらに、各教材文の終わりには、「自分を見つめて考える」「考えを深める」「いろいろな見方で考える」という視点に立った具体的な発問が示されている。そして、考えを深めるページ「マイ・プラス」や教材で学習した内容を深め、広げるコラム「Thinking」も充実しており、「自分を見つめ、考え、生きる」道徳の時間につながる工夫がある。以上の理由で、総合的に判断して「あかつき図書」が最も適している。</p>

教育長 教育長	<p>事務局からの提案について、質問、意見があればお願いします。</p> <p>前回の採択時には、別冊ノートの有無について協議になった。今回別冊ノートがあるのは「日本文教出版」だけである。ただ、「日本文教出版」はこれまでもそうであったが、主題が明示してあることが気になった。どうしても押さえないと道德価値の項目を、1時間の授業の中で確実に押さえるために、そういったやり方もあるかもしれないが、道德の時間は本来どういう時間なのか考えた時に、初めから主題が明示してあるのがよいのか疑問が残る。「学び深めよう」というコーナーは工夫されていてよい。「東京書籍」は、全ての教材において、二次元コードで朗読音声を聞くことができるようになっているが、これは評価が分かれるのではないかと思う。「あかつき図書」は、扱っている題材がよい。また、字体が読みやすい。学習の記録を学期に1回評価するところも設定してある。また、各者共通している教材を比較した時に、「あかつき図書」の文は非常によく練られていると感じた。例えば、「裏庭での出来事」や「偽りのバイオリン」では、わずかな言葉の違いや文末の表現の違いなど、次に考えるためのヒントとなるような文を意図的に使っていると感じた。「あかつき図書」や「教育出版」には、是非とも取り扱ってほしい神戸大震災を題材にした「語りかける目」が題材として入っている。選定委員の意見や、総合的に見て、私は「あかつき図書」がよいと思う。また、これは評価が分かれると思うが、「東京書籍」はすべての教材に二次元コードで朗読の音声を付している。読むことが苦手な子供たちにとって、事前に聞くことができるなど良い点はあるかもしれないが、授業で教師が範読するという考えもあると思うので、検討の余地はあると思う。</p>
教育長	他に意見はないか。
委員（全員）	ない。
教育長	それでは、「あかつき図書」ということでよろしいか。
委員（全員）	よい。
教育長	それでは、道德は「あかつき図書」に決定する。中学校における教科書の採択は以上である。最後に事務局から採択結果について確認をお願いします。
事務局	国語が「三省堂」、書写が「教育出版」、地理が「東京書籍」、歴史が「東京書籍」、公民が「東京書籍」、地図が「帝国書院」、数学が「学校図書」、理科が「啓林館」、音楽（一般）が「教育出版」、音楽（器楽合奏）が「教育出版」、美術が「光村図書」、保健体育が「大修館」、技術・家庭の技術分野が「教育図書」、家庭分野が「教育図書」、英語が「東京書籍」、道德が「あかつき図書」である。
教育長	日程第5、議案第34号、「令和7年度使用中学校教科用図書の採択について」採決を行う。ただ今、事務局でまとめて確認をしたが、これでよろしいか。
委員（全員）	よい。

教育長	日程第5、議案第34号、「令和7年度使用中学校教科用図書の採択について」採決された。慎重な審議に感謝する。
-----	---